

国内石油天然ガスに係る地質調査・メタンハイドレート の研究開発等事業費

令和2年度概算要求額 **263.0億円（245.1億円）**

事業の内容

事業目的・概要

- 日本周辺海域に一定の資源量が期待される在来・非在来型の石油・天然ガスを安定的なエネルギー資源として利用可能とするため、「エネルギー基本計画」（平成30年7月閣議決定）等に基づき、資源量調査や技術開発等を実施します。

(1) 国内石油天然ガス基礎物理探査

JOGMECが保有する三次元物理探査船を用いて、日本周辺海域の未探鉱地域等における石油・天然ガスのポテンシャルを把握するための調査を行います。

(2) 国内石油天然ガス試錐支援

(1)の結果等を踏まえ、民間企業が実施する試錐（掘削調査）に対して、経費の一部を補助します。

(3) メタンハイドレートの研究開発

日本周辺海域に相当量の賦存が期待されるメタンハイドレートについて、我が国のエネルギー安定供給に資する重要なエネルギー資源として、将来の商業生産を可能とするための技術開発を行います。

成果目標

- 三次元物理探査を年間約5千km²、令和10年度までに概ね5万km²実施します。また、試錐支援を機動的に実施します。
- メタンハイドレートについては、民間企業が主導する商業化に向けたプロジェクトが令和5～9年度の間を開始されることを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



(1)及び(3) 委託

(2)の試錐支援
補助(9/10、1/2)

民間企業等

事業イメージ

(1) 国内石油天然ガス 基礎物理探査



三次元物理探査船

三次元物理探査は、地下の地質構造が立体的に把握できる高精度な探査手法。海中で人工的に音波を発生させ、地層境界面で返ってきた反射波を探査船から曳航したケーブルに内蔵した受信器でとらえて、地下の地質構造を調査。

(2) 国内石油天然ガス 試錐支援



海上大型掘削装置

基礎物理探査等の結果をもとに、民間企業が石油・天然ガスの存在や地質・地質構造を具体的に確認するために実施する掘削調査について、経費の一部を補助。

(3) メタンハイドレートの研究開発

① 砂層型メタンハイドレート



砂層型メタンハイドレートは、長期生産技術の確立に向けて計画している陸上産出試験のためのガス生産システムの設計・構築等を実施。

② 表層型メタンハイドレート



表層型メタンハイドレートは、ガス生産に係る要素技術や環境影響評価手法の研究開発、海底の状況を把握するための海洋調査等を実施。